2 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

二人の知音、うち連れ立つて行く道で、熊といふ獣に行きやうて、一人は木に登り、いま一人は熊と闘うたが、精力が尽くれば地に倒れ、虚死をしたれば、かの獣の形儀で、死人には害を為さぬものぢや。されどもその獣生死の安否を試みようと思うたか、耳のほとり、口のあたりを嗅いでみれども、死んだごとくに動かなんだれば、①そこを退いた。そのとき、木に登つた者が下りて、その人に近づいて、「さてただいま②御辺に、かの獣がささやいたことは何ごとぞ。」とたづぬれば、こたへていふは、「かの獣の我に教訓を為いた、それを何ぞといふに、『なんぢ向後おん身のやうに大事に臨うで見放さうずる者と知音すな』と。」

（「伊曾保物語」より）

注 ＊知音＝友人。　＊行きやうて＝出くわして。
＊虚死＝死んだふり。　＊形儀＝習性。　＊御辺＝あなた。
＊教訓を為いた＝教え諭した。　＊向後＝今後。

★(1) 〜〜線部「こたへていふは」を現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

（　　）

★(2) ——線①「そこを退いた」の主語にあたるものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

（　　）

ア 熊　イ 木に登った者　ウ 熊と闘った者
エ 木に登った者と熊と闘った者の二人

★(3) ——線②「御辺に、かの獣がささやいた」とあるが、これは、どんな光景を見てそのように思ったのか。現代語で簡潔に書きなさい。

（　　）

★(4) この文章は、ある教訓を導くために書かれたものである。その教訓の内容を現代語で三十字程度にまとめて書きなさい。